

withコロナ時代に勇気と希望を

三重から示す！ 新しい国体・大会のモデル

安全・安心に開催できる コロナ禍における新しい国体・大会を目指して





- P. 1 新型コロナ状況下におけるスポーツイベントの現状
P. 2 両大会の見直し

会場

- P. 3 開・閉会式の見直し
P. 5 会場の変更
P. 7 新たな“とわか”を実現！
P. 8 開・閉会式の開催規模

式典

- P. 9 新たな開・閉会式のスタイル
P. 10 会場イメージ
P. 11 演出イメージ

ガイドライン

- P. 13 国体競技会 コロナ対策ガイドライン
P. 15 大会競技会 コロナ対策ガイドライン

広報

- P. 16 オール三重の一体感を届けるために

新型コロナ状況下におけるスポーツイベントの現状

- R2.3月～ 東京オリンピック・パラリンピック延期
→その後、選抜高校野球、インターハイの中止、鹿児島国体・大会の延期が決定
- R2.7月～ プロ野球・Jリーグ 入場者数・・・5,000人からスタート
- R2.9月～ プロ野球・Jリーグ 入場者数・・・会場収容人数の50%に緩和

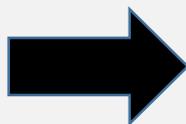


2021

《三重とわかか国体はどうする?》



日本スポーツ協会ガイドライン
三重県指針ver.5



まずは発生防止

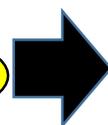
- 選手→スポーツをしていないときのマスク着用、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒、ミーティング等でも3密を避ける。
- 参加者→マスクの着用、大きな声での応援を避ける、3密を避ける。
- 施設→収容定員の50%制限厳守、3密にならない工夫、感染防止対策の実施。

など

一方で

国体は70万人のイベント
万全の対策が必要

万が一、
クラスターが発生したら、どうなる!?



選手 →競技会の中止!
式典関係者→学校などに波及!
一般県民 →県内全域に拡大!



三重とこわか国体・三重とこわか大会の見直し



三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催にあたって留意すべき事項



専門家の意見

「密を回避すること」

「クラスターを発生させないため、グループ単位（選手と観客、選手団同士など）での接触の機会を少なくする工夫を講じること」

「万が一、開・閉会式でクラスターが発生しても、競技会が継続できる対応とすること」

私たちには、S50三重国体の質実国体、競技本位国体のレガシーがある！

専門家や関係機関と協議

両大会全般にわたる見直しを決断！！

新型コロナ危機を乗り越え、両大会が開催できることを全国に示し、スポーツの力強さ、素晴らしさを三重の地から発信。

上記を実現するために

基本的な考え方

選手ファースト

選手自らの力を十分に発揮できる安全・快適な環境の準備



安全・安心な大会運営

皆さんが安心して競技会を観戦、応援、参加できる大会運営



両大会で掲げてきた価値の新たなかたちでの創造

コロナ禍にあっても、県民力の結集や多様な魅力発信ができる大会



開・閉会式の見直し①

開・閉会式会場には、選手、役員、式典演者、招待者、観覧者など約26,000人（国体：総合開会式）～約14,000人（国体：総合閉会式）が勢揃いし、密が不可避な状態 ※ 人数は過去5年の先催県平均

I 選手ファースト、安全・安心な大会運営の実現のために！！

1 競技会への影響排除

選手を式典会場から物理的に分離！！
開・閉会式会場で競技会を行わない！！



2 徹底的な感染防止対策

式典演者を式典会場から物理的に分離！！
式典演者の3密回避、会場における式典演者の飛沫防止対策！！
全ての客席でソーシャル・ディスタンスの確保！！



3 参加者削減による感染リスクの低減

来場する全ての参加者（選手、役員、式典演者、招待者、観覧者など）を大幅に削減！！
そもそも密な状態を作らない！！



II 両大会で掲げてきた価値の新たなかたちでの創造

映像や情報通信技術を活用することで、両大会への思いや感動を伝える

開・閉会式の見直し②



これまでの実績における先催県の平均（主な例）

式典時間
（国体 開会式）

約 4.5時間

観覧者数
（国体 開会式）

約 12,000人

選手参加者数
（国体 開会式）

約 4,100人

式典関係者数
（国体 開会式）

約 4,900人

式典時間の短縮や観覧者、選手、式典関係者等を大幅に縮小

会場及び式典実施方法の変更が必要



会場の変更（変更前）

三重交通G スポーツの杜 伊勢
陸上競技場（伊勢市）



	概要
敷地面積	18.5ha
式典参加人数	約13,000人（国体 総合開会式）※
駐車場	約750台
仮設物	約440個 ユニットハウス及びテント数
観光客対策	パーク&バスライドの実施



仮設撮影台



ユニットハウス



仮設トイレ

※観覧者数（約8,000人）、選手参加者数（約3,000人）、式典関係者数（約1,800人）の合計

会場の変更（変更後）

三重県総合文化センター 大ホール（津市）



	施設概要
敷地面積	6.2ha
収容人数	式典会場：大ホール（1,903席）
駐車場	約1,400台
諸室	中ホール（968席） 小ホール（285席） 多目的ホール（383席） 第1・第2ギャラリー（計1,100㎡） この他 活用できる諸室が21室

会場変更による準備の概要

規模縮小に伴い、
既存の諸室での
対応によって仮設設置が
数十個程度に



開・閉会式関係者に
特化した来場者誘導



広い駐車スペース



多様な式典演出に対応できる
複合施設を同一敷地内に備えた
県内最大規模のホール



会場変更で新たな“とこわか”を実現！



と とにかく優先！選手のコンディション



参加人数の絞り込みや
式典時間の短縮によって
選手の負担を軽減！

こ 荒天時も安心！屋内開催



天候に左右されない
効率的な運営が可能に！
式典に集中できる！

わ 私も参加！県民力結集



映像や情報通信技術を活用し、三重県だけでなく選手の地元からも応援のエールを届ける！

映像とライブをおりませ、炬火に込められた県民の思いを伝え、感動を創出！

か 簡素がええやん！式典運営



今までにないコンパクトな運営に向け、陸上競技場での開催費用をリセットし、規模縮小に応じた経費の節減へ！

駐車場など既存施設の有効活用や、警備員や県職員の従事人数の縮減が可能！

開・閉会式の開催規模



新しいかたちの開・閉会式 ～開催規模～

式典時間
(国体 開会式)

観覧者数
(国体 開会式)

選手参加者数
(国体 開会式)

式典関係者数
(国体 開会式)

■先催県平均

約 4.5時間

約 12,000人

約 4,100人

約 4,900人

■三重県

三重交通G スポーツの杜 伊勢

陸上競技場

約 3.5時間

約 8,000人

約 3,000人

約 1,800人



■三重県

総合文化センター

約 1.5時間

約 300人

約 250人
(サテライト会場)

約 250人
(サテライト会場を含む)



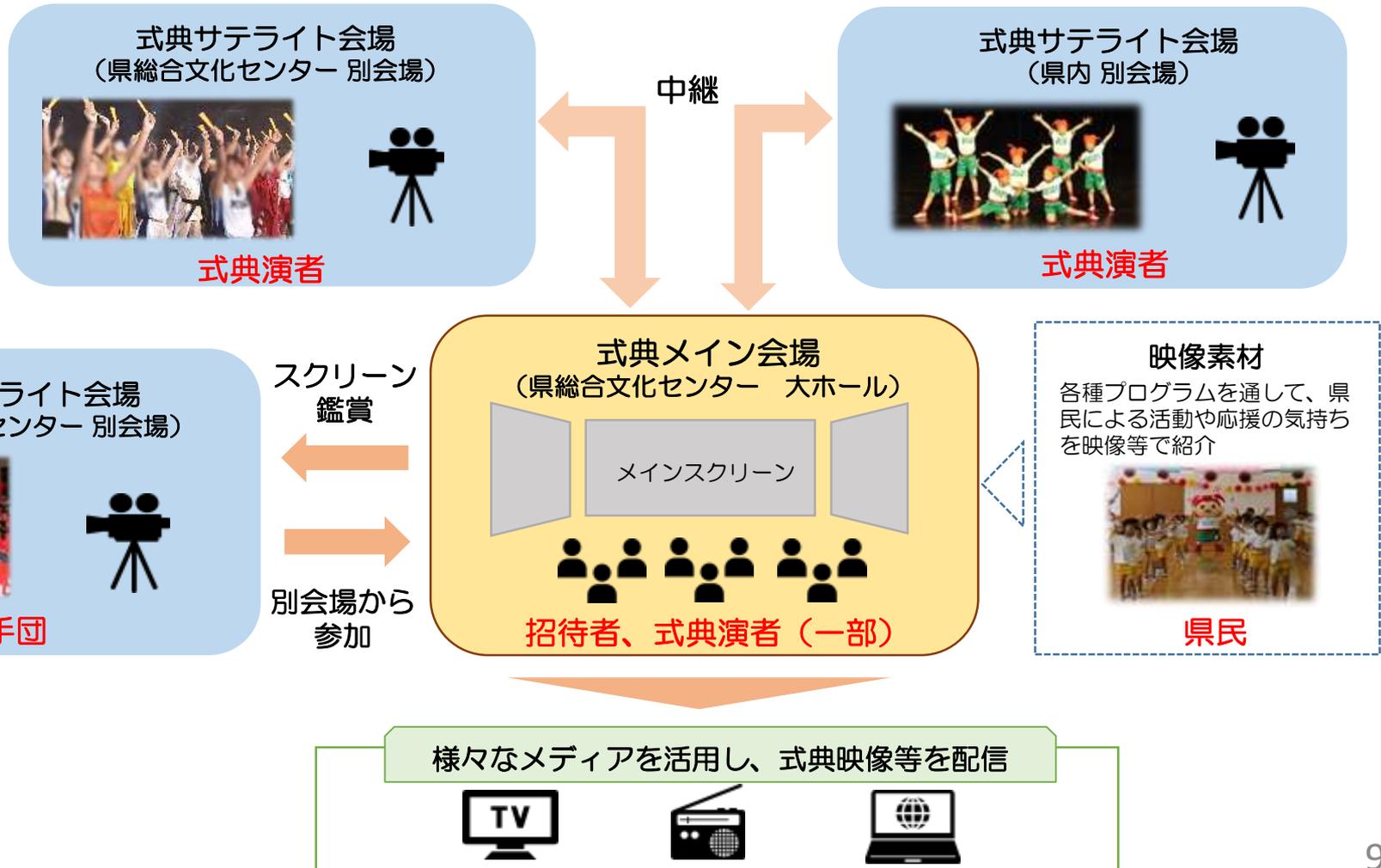
新たな開・閉会式のスタイル

国体史上初!

- ①選手と式典の分離
- ②デジタル技術を活用し感動を創出

従前の例にとられない
大胆な発想の転換
(三重県モデルの開・閉会式)

「オンライン式典」の実施



スポーツの祭典である両大会の式典を文化施設で開催するにあたり、様々な技術と演出を駆使し、会場を「**バーチャル陸上競技場**」とした式典を実施



※式典イメージについては、会場の物理的、技術的制約により変更となる可能性があります

オンライン参加となる選手団を、デジタル技術を駆使しバーチャルのスタンド席に着席



※式典イメージについては、会場の物理的、技術的制約により変更となる可能性があります

選手団・役員

別会場からオンラインでの参加となる選手団については、バーチャルのスタンド席から式典に参加



式典

オフライン（ライブ）とオンラインを組み合わせたハイブリッドスタイル



県民総参加

録画映像等を活用し応援の気持ちが伝わる県民参加型のプログラムを計画。



オンラインによる演技パフォーマンスと映像技術を掛け合わせた感動の演出



(公財) 日本スポーツ協会
「スポーツイベントの再開に向けた
感染拡大予防ガイドライン」
【スポーツイベント全般を対象】

各中央競技団体
「競技別ガイドライン」
【各競技の感染予防の実施方法】

これらのガイドラインに基づき、市町・競技団体が
コロナ対策を含めた開催準備を進めていく中で、

様々な課題が浮き彫りに!!

競技ごとの対策方法
に違いがある

コロナ対策に伴い
負担が増加する

各競技会の対策に大きな
バラツキがでてしまうのでは？

参加者の命と健康を
守るには、どこまで
対策すべきか？

慣例・慣習に囚われず、
運用面の工夫で負担を
減らせないか？

各競技会共通にとるべき対策

安全安心な競技会運営

国体の簡素・効率化

これらの課題を解決するため
『三重県指針』に加え、上記三つの要素を盛り込んだ
合理的な判断の拠り所として
三重とこわか国体独自のガイドラインが必要

「**三重とこわか国体競技会**における
新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン（仮称）」

11月完成
予定



三重とこわか国体競技会の運営にあたり、参加されるすべての方の**生命・健康の安全を最優先**に考え、正式競技・特別競技・公開競技・デモンストレーションスポーツを対象とし、市町・競技団体が開催準備を進めていくなかで生じる様々な課題の解決に資する「**合理的な判断の拠り所**」としてお示すものです。

<三重とこわか国体独自の取組（案）>

- 「**安心みえるLINE**」の活用
- **監督会議、開始式等の検討**による簡素・効率化
- **競技補助員等の見直し** など



<対策の一例>



入場口での検温



三密の回避



接触確認アプリ「COCOA」の活用

<ガイドラインの主な記載項目（案）>

● 役割分担

- ・ 県・市町実行委員会、競技団体、選手団それぞれが実施する対策について整理

● 参加者において遵守すべき事項

- ・ 参加者の健康状態の管理方法等（体調管理チェックシートの記入・提出、検温等）

● 会場内において実施すべき事項

- ・ 会場の受付、観客席、おもてなし等における対策等（手指消毒剤の設置、三密を避けるための対策等）

● 宿泊、輸送

- ・ 宿泊・輸送に係る業界ガイドラインに基づいた対策等

本ガイドラインは、**県が主体となって**運営を行う三重とこわか大会の各競技会を、**来場される方の障がい特性等にも配慮し、すべての方にとって安全・安心な競技会**とするため、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、各競技団体等が定めるガイドラインを参考に**標準的な取組等**を定めるものです。

＜ガイドラインの主な記載項目（案）＞

● 役割分担

- 県実行委員会、競技運営主管団体、選手団、来場者の役割の整理

● 参加者において実施すべき事項

- 参加者個人の健康状態の把握
- 参加者の健康状態の把握方法 等

● 会場内において実施すべき事項

- 会場の受付、観客席、おもてなし等における対策等

● 監督会議、開始式、表彰式

- 感染対策を考慮した監督会議、開始式、表彰式等の開催方法

＜三重とこわか大会独自の取組（案）＞

- 「**安心みえるLINE**」の活用
- **感染対策担当者**の設置
(実行委員会、競技運営主管団体、選手団)
- **重症化リスクが高い方への対策**
(選手団における派遣可否の判断等)
- **障がい特性等に配慮した環境整備**
(ICTの活用による密回避)
など



※「宿泊・輸送」については、三重とこわか国体競技会のガイドラインを準用します。

「**三重とこわか大会競技会における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン（仮称）**」

12月完成
予定



オール三重の一体感を届けるために



コロナ禍にあって従来のような来場による観戦・応援が難しい状況にあっても、夢と感動やオール三重の一体感を感じていただけるよう、情報の発信はもとより応援が伝わる双方向の仕組みを取り入れていく。

<重点項目>

選手や競技の魅力を発信

総合開会式や競技を
自宅で観戦、応援

ご協賛いただいた企業
の情報を発信

選手だけではなく多くの方の
関わりを伝え、県民力の
結集を感じていただく

具体的な取組例

テレビ

- ・開会式や競技の中継
- ・開催中のハイライトコーナー
- ・番組に県民の応援の声を届ける仕組みを導入



インターネット配信

- ・インターネットで競技の中継を行う「国体チャンネル」において、会場地市町と連携し全ての決勝戦や三重県選手が出場する予選などを中心に配信



その他

- ・開閉会式の看板露出に代わり、テレビ、交通広告等で協賛企業をPR
- ・メディアでとよわか運動やボランティア活動などを紹介
- ・来県した選手へのおもてなしと県民への開催周知の花火を実施



■新型コロナウイルス感染拡大による社会の変化



- 命と健康の危機
- 経済活動の停滞
- 就労状況の悪化
- デマ、差別、偏見
- 「新しい生活様式」
- ● ●

こんなに大変な時にスポーツ？

池江 璃花子
選手
メッセージ

R2.7.23

世の中がこんな大変な時期に、スポーツの話をすること自体、否定的な声があることもよく分かります。

ただ、一方で思うのは、逆境からはい上がっていくときには、どうしても希望の力が必要だということです。



スポーツでの「希望」が必要！！

両大会を成功させ、**勇気と希望を皆さんへお届けしたい！**

県民の皆さんのご理解・ご協力をお願いいたします

